



## 2023年8月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2023年4月13日

上場会社名 株式会社トリプルアイズ 上場取引所 東  
 コード番号 5026 URL <https://www.3-ize.jp/>  
 代表者(役職名) 代表取締役 (氏名) 山田 雄一郎  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役CFO (氏名) 加藤 慶 (TEL) 03-3526-2201  
 四半期報告書提出予定日 2023年4月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (投資家向け)

(百万円未満切捨て)

## 1. 2023年8月期第2四半期の連結業績(2022年9月1日~2023年2月28日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年8月期第2四半期	1,099	△9.3	△33	—	△30	—	△401	—
2022年8月期第2四半期	1,212	—	96	—	93	—	84	—

(注) 包括利益 2023年8月期第2四半期 △401百万円(—%) 2022年8月期第2四半期 84百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年8月期第2四半期	△57.74	—
2022年8月期第2四半期	13.55	—

- (注) 1. 当社は、2021年10月29日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。2022年8月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、1株当たり四半期純利益を算出しております。  
 2. 当社は、2021年8月期第2四半期においては四半期連結財務諸表を作成していないため、2022年8月期第2四半期の対前年同四半期増減率を記載しておりません。  
 3. 2023年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。  
 4. 2022年8月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式は存在するものの、当社株式は非上場であり期中平均株価が把握できないため記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年8月期第2四半期	1,362	755	55.5
2022年8月期	1,788	1,157	64.7

(参考) 自己資本 2023年8月期第2四半期 755百万円 2022年8月期 1,157百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年8月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2023年8月期	—	0.00	—	—	—
2023年8月期(予想)	—	—	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2023年8月期の連結業績予想(2022年9月1日~2023年8月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	2,322	△4.2	△211	—	△209	—	△583	—	△84.02

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正につきましては、本日(2023年4月13日)公表いたしました「業績予想の修正、減損損失、ソフトウェア評価損の計上及び繰延税金資産の取り崩しに関するお知らせ」をご参照ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

新規 一社、除外 一社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)

2023年8月期2Q	6,949,000株	2022年8月期	6,949,000株
------------	------------	----------	------------

② 期末自己株式数

2023年8月期2Q	一株	2022年8月期	一株
------------	----	----------	----

③ 期中平均株式数 (四半期累計)

2023年8月期2Q	6,949,000株	2022年8月期2Q	6,254,301株
------------	------------	------------	------------

(注) 当社は、2021年10月29日付で普通株式1株につき200株の割合で株式分割を行っております。2022年8月期の期首に当該株式分割が行われたものと仮定して、期末発行済株式数及び期中平均株式数を算出しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記載は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における我が国経済の状況は、ようやく新型コロナウイルスの流行及びその対処に伴う政策等による落ち込みの出口が見えはじめ、個人消費も回復傾向にあります。一方で、ウクライナ戦争に端を発する混乱、世界主要国での利上げ政策の影響から、外需に依存する日本でも景気後退の懸念は払拭されないままです。また、長期的には国内の人口減少・少子高齢化の影響を受け、国内市場に依拠する企業にとっては、潜在成長率が停滞する恐れがあり大きな社会課題となっております。

当社グループの属する業界においては、2010年代後半から活発化していた各企業のデジタルトランスフォーメーション(DX)関連の投資が、コロナ禍によって冷えた反応を含むかたちで大幅な回復の傾向にあります。DX、ITサービス関連の展示会の客足はコロナ禍以前まで回復しており、各企業のDX投資は本格化する様相を呈しております。DXは現状課題へのソリューションとなるだけでなく、より積極的な業務改善、事業改革の礎とする企業も増加しており、既存システムの刷新やデータ分析のAI化に対する期待は高く、今後もこの流れの加速は続いていくと見られています。一方で、エンジニアの不足は深刻化しており、優秀な人材の獲得競争が激化しております。

そのような状況下、当社グループは、「テクノロジーに想像力を載せる」という経営理念の下、人にやさしいICTサービスの提供を目指し、当社グループ独自のテクノロジーで新たな時代への橋渡しとなるイノベーションを追求しております。経営基盤の安定を担うSI部門と成長を加速させるAIZE部門のシナジー効果を最大限に発揮させ、技術力と社会実装力を併せ持つ独自の企業としての優位性を確立してまいります。

当第2四半期連結会計期間においては、新型コロナウイルス問題に出口が見えはじめたことによるDXへの大規模な投資が再開される概況に照準を合わせ、営業活動を行っております。一方で、新型コロナウイルス感染症対策として提供してきた自動検温装置と画像認識技術を結合したサービスの需要の低下が顕在化しております。また、当社グループは、顔認証AIが世の中に欠かせないテクノロジーとして社会に広く実装されるよう、大手企業含むパートナーとも協働し取り組んでおりますが、人々の生活や行動を変えるシステム実装には当初の想定以上に丁寧に時間をかけることが必要であり、あわせて、これらに関するシステム実装の規模拡大や収益化も短期の見込み数値として織り込むべきではないと判断いたしました。その結果、減損損失を認識するに至りました。

第3四半期以降の業績への貢献を見据え、白ナンバー事業者へのアルコール検知の義務化を見越した、AIZEシステムにアルコールチェッカーとの連携機能を搭載したサービスの拡大、顔認証AIをスマートロックと連動させるプロダクトのローンチを行っております。

また、マーケティング活動の活発化、販売パートナー網の拡充といった営業戦略によって、AIZEプロダクトの拠点ID数は増加しております。AIZEプロダクト以外にも、当社AI技術へのニーズは高く、画像分析や需要予測といったAI開発案件の増加へとつながっております。

一方、エンジニア不足が継続する状況の中、先駆けてエンジニア人材強化のため先行投資を進めております。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の経営成績は、売上高は1,099,286千円(前年同期比9.3%減)、営業損失は33,428千円(前年同期は営業利益96,629千円)、経常損失は30,808千円(前年同期は経常利益93,664千円)、親会社株主に帰属する四半期純損失は401,262千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益84,738千円)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりであります。

#### (AIソリューション事業)

当セグメントにおきましては、AI、IoT、DXに係る開発、WEBシステム開発やAIZE関連請負開発に関する売上は安定的に推移する一方、エンジニア人材強化のための先行投資を実施した結果、当第2四半期連結累計期間において、売上高は1,086,889千円(前年同期比9.6%減)となり、セグメント損失は37,103千円(前年同期はセグメント利益96,396千円)となりました。

また、当セグメントのうち、SI部門における経営上の指標であるエンジニア単価については614千円(前連結会計年度比1.1%減)、エンジニア人数については1,329人月(前連結会計年度比46.6%の進捗)、AIZE部門における経営上の指標である拠点ID数は2,545件(前連結会計年度末比55.3%増)となりました。

(研修事業)

当セグメントにおきましては、研修実施等による売上を計上しており、当第2四半期連結累計期間において、売上高は7,941千円(前年同期比58.3%増)となり、セグメント利益は3,545千円(前年同期比353.4%増)となりました。また、経営上の指標である研修の請負金額は、7,941千円(前連結会計年度比24.4%の進捗)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

### ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における資産の合計は、1,362,839千円と前連結会計年度末と比較して425,250千円減少しております。

流動資産は1,092,867千円（前期末比391,835千円減）となり、主な要因としては現金及び預金が385,333千円減少したことによるものであります。

固定資産は269,971千円（前期末比33,414千円減）となり、主な要因としてはAIZE技術開発を目的としたソフトウェア仮勘定が195,664千円、ソフトウェアが37,075千円それぞれ減少した一方、資本業務提携に伴い投資有価証券が213,285千円増加したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における負債の合計は、606,918千円と前連結会計年度末と比較して23,988千円減少しております。

流動負債は476,842千円（前期末比4,850千円減）となり、主な要因としては買掛金が36,846千円減少した一方、短期借入金が32,000千円増加したことによるものであります。

固定負債は130,076千円（前期末比19,137千円減）となり、主な要因としては長期借入金が19,150千円減少したことによるものであります。

当第2四半期連結会計期間末における純資産の合計は、755,920千円と前連結会計年度末と比較して401,262千円減少しております。

主な要因としては親会社株主に帰属する四半期純損失401,262千円の計上により利益剰余金が減少したことによるものであります。

### ② キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物は、694,596千円と前連結会計年度末と比べ385,333千円の減少となりました。各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、54,548千円の支出（前年同期は7,422千円の収入）となりました。主な減少要因は、税金等調整前四半期純損失382,212千円（前年同期は税金等調整前四半期純利益93,664千円）、主な増加要因は、減損損失324,873千円（前年同期はなし）等であります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、352,130千円の支出（前年同期は75,812千円の支出）となりました。主な減少要因は、投資有価証券の取得による支出213,285千円（前年同期はなし）、無形固定資産の取得による支出125,626千円（前年同期は無形固定資産の取得による支出87,601千円）等であります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、21,345千円の収入（前年同期は61,912千円の収入）となりました。主な増加要因は、短期借入金の純増加額32,000千円（前年同期は短期借入金の純減少額10,000千円）、長期借入による収入30,000千円（前年同期はなし）、主な減少要因は、長期借入金の返済による支出40,654千円（前年同期は長期借入金の返済による支出27,453千円）であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の業績予想につきましては、本日（2023年4月13日）発表した通りとなります。なお、今後の見通しにつきましては、発表日現在において入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。連結業績予想につきましては、業績予想の修正が必要になった場合は、速やかにお知らせいたします。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,079,929	694,596
受取手形	-	1,720
売掛金	274,945	238,200
契約資産	71,517	70,365
商品及び製品	11,384	37,133
原材料及び貯蔵品	233	169
その他	50,425	54,036
貸倒引当金	△3,731	△3,353
流動資産合計	1,484,703	1,092,867
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	3,271	8,976
車両運搬具（純額）	102	51
その他（純額）	9,526	9,141
有形固定資産合計	12,900	18,169
無形固定資産		
のれん	5,399	3,979
ソフトウェア	40,430	3,354
ソフトウェア仮勘定	195,664	-
その他	2,086	1,937
無形固定資産合計	243,580	9,271
投資その他の資産		
投資有価証券	-	213,285
繰延税金資産	17,726	-
その他	29,179	29,246
投資その他の資産合計	46,905	242,531
固定資産合計	303,386	269,971
資産合計	1,788,090	1,362,839

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年8月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年2月28日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	147,249	110,402
短期借入金	79,000	111,000
1年内返済予定の長期借入金	60,264	68,760
未払金	101,136	100,998
未払法人税等	18,405	10,153
契約負債	14,121	17,647
賞与引当金	6,100	11,850
受注損失引当金	11	12
その他	55,404	46,016
流動負債合計	481,693	476,842
固定負債		
長期借入金	149,214	130,063
繰延税金負債	—	12
固定負債合計	149,214	130,076
負債合計	630,907	606,918
純資産の部		
株主資本		
資本金	719,935	719,935
資本剰余金	669,935	669,935
利益剰余金	△232,687	△633,949
株主資本合計	1,157,182	755,920
純資産合計	1,157,182	755,920
負債純資産合計	1,788,090	1,362,839



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2021年9月1日 至2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自2022年9月1日 至2023年2月28日)
売上高	1,212,018	1,099,286
売上原価	860,415	800,686
売上総利益	351,602	298,600
販売費及び一般管理費	254,973	332,029
営業利益又は営業損失(△)	96,629	△33,428
営業外収益		
受取利息	5	12
助成金収入	2,565	2,750
補助金収入	2,673	—
その他	364	790
営業外収益合計	5,607	3,552
営業外費用		
支払利息	750	932
株式交付費	348	—
支払手数料	7,473	—
営業外費用合計	8,572	932
経常利益又は経常損失(△)	93,664	△30,808
特別損失		
固定資産除却損	—	274
減損損失	—	324,873
ソフトウェア評価損	—	26,255
特別損失合計	—	351,403
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	93,664	△382,212
法人税、住民税及び事業税	8,925	1,309
法人税等調整額	—	17,739
法人税等合計	8,925	19,049
四半期純利益又は四半期純損失(△)	84,738	△401,262
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	84,738	△401,262

## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	84,738	△401,262
四半期包括利益	84,738	△401,262
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	84,738	△401,262
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	93,664	△382,212
減価償却費	14,463	13,677
減損損失	-	324,873
ソフトウェア評価損	-	26,255
固定資産除却損	-	274
のれん償却額	1,922	1,419
貸倒引当金の増減額(△は減少)	236	△377
賞与引当金の増減額(△は減少)	△7,071	5,749
受注損失引当金の増減額(△は減少)	△303	1
受取利息及び配当金	△5	△12
為替差損益(△は益)	△43	-
支払利息	750	932
売上債権の増減額(△は増加)	△23,206	36,176
棚卸資産の増減額(△は増加)	16,478	△25,685
仕入債務の増減額(△は減少)	△20,528	△36,846
助成金収入	△2,565	△2,750
補助金収入	△2,673	-
株式交付費	348	-
支払手数料	7,473	-
その他	△47,503	△18,160
小計	31,436	△56,684
利息及び配当金の受取額	3	10
利息の支払額	△684	△979
法人税等の支払額又は還付額(△は支払)	△22,791	354
助成金の受取額	2,565	2,750
補助金の受取額	2,673	-
手数料の支払額	△5,779	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	7,422	△54,548
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
投資有価証券の取得による支出	-	△213,285
有形固定資産の取得による支出	△3,293	△12,704
無形固定資産の取得による支出	△87,601	△125,626
投資有価証券の売却による収入	11,250	-
その他	3,832	△513
投資活動によるキャッシュ・フロー	△75,812	△352,130

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2021年9月1日 至 2022年2月28日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2022年9月1日 至 2023年2月28日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△10,000	32,000
長期借入れによる収入	-	30,000
長期借入金の返済による支出	△27,453	△40,654
株式の発行による収入	99,366	-
財務活動によるキャッシュ・フロー	61,912	21,345
現金及び現金同等物に係る換算差額	43	-
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△6,433	△385,333
現金及び現金同等物の期首残高	617,610	1,079,929
現金及び現金同等物の四半期末残高	611,176	694,596

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。